

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）
分担研究報告書

歯科口腔外科領域における肝炎ウイルス受検に関する研究

研究分担者 河野豊 北海道医療大学予防医療科学センター 准教授

研究要旨

歯科口腔外科診療においては、唾液や血液との接触による水平感染のリスクが存在する。同領域における肝炎医療コーディネーターの果たす役割を見出すために、実態調査として肝炎ウイルスの陽性率を検討した。

A. 研究目的

歯科口腔外科診療において医療従事者は患者の唾液や血液に暴露するため、これら体液との接触や医療器具を介した HBV や HCV の水平感染のリスクが存在する。このリスクに対して医療従事者の HBV ワクチン接種の推奨や標準予防策による感染対策が推奨されるが、医療施設によってそのリスクヘッジは様々である。そこで肝炎医療コーディネーターがこれらの問題点に果たす役割を明らかにするために、当院歯科口腔外科に外来受診した患者のウイルス陽性率及び肝機能障害の実態調査を行った。

B. 研究方法

2014 年から 2018 年の間に当院歯科口腔外科で手術前に施行された肝炎ウイルス検査の結果を解析した。

（倫理面への配慮）

当院倫理委員会の承認を得た。

C. 研究結果

調査期間中に HBV 抗原陽性は 4.4%、HCV 抗体陽性は 2.2% で全例 40 歳以上であった。

これら陽性例の多くは歯科クリニックからの紹介であったが、当院で初めて指摘された HBV、HCV 陽性も 1 例ずつ認められた。調査期間中に複数回ウイルス検査を施行された症例の中で、途中から HBV 抗原または HCV 抗体が陽転化した症例は認めなかった。

D. 考察

調査期間中にウイルス検査を施行されたのは全受診者の 3.9% と低く、ウイルス検査の受検状況としては十分とはいえなかった。また紹介先の歯科クリニックからの診療情報や患者の問診票内に肝炎ウイルスに関する記載がなかった症例もあり、正確な肝炎ウイルスの実態を把握することは困難であることが明らかとなった。新規の HBV と HCV 患者が認められたことから、歯科口腔外科受診患者における肝炎ウイルスの拾い上げには一定の有効性がある。

今後これらの拾い上げ、及びその後の受検受療において肝炎医療コーディネーターが果たす役割を精査予定である。

E. 結論

歯科口腔外科において、肝炎ウイルス患

者が一定数存在することが確認できた。今後はより効果的なウイルス肝炎患者の拾い上げに対して肝炎医療コーディネーターの果たすべき役割を精査する予定である。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし

2. 学会発表

第 105 回日本消化器病学会総会、金沢 2019
年 5 月 9 日一般演題（ポスター）

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし